



NEWS

VOL.
143
2008・7月発行

第44回体育祭 テーマ ～鮮花～

日程/2008年5月26日(月)



誕生日月で分ける紅白対抗というスタイルを始めて2年目の体育祭。より紅白対抗色を強くするため紅白種目を増やし、中3男子が背渡り競争で、高I男子が手渡り競争で代表生徒を運ぶという「背渡り手渡り世渡り上手」や、グラウンド中央に置かれた8個の大玉を、高II・高III女子が相手の陣地に押し込むという「押忍!大玉」というユニークなネーミングの新しい種目が行われました。例年行われていた騎馬戦も、高II・高III男子合同で、大将騎馬を

倒すか、残った騎馬の多い方が勝ちというように、より作戦を立てて戦うようなルールに変わり、とても見応えがありました。また、パサデナ生も中2生徒と一緒に参加し、教職員も紅白に分かれて綱引きを行いました。異例の形での雨天順延で、平日に実施されましたが、多くの方に来場していただき、大いに盛り上がり、三宅キャンパスで行われる最後の体育祭としてふさわしく素晴らしい体育祭となりました。



体育祭までの1ヶ月間、私の生活は応援団中心に回っていました。毎日練習のためだけに学校に来ていました。思い通りにいかないことも多々あり何度も負けそうになりましたが、応援団を応援してくれた友達、最後までついてきてくれた団員、励ましてくださった先生方のおかげで本番は自信をもって演技ができました。今回の体育祭のことは一生忘れません、忘れられません!なぎさはまだ「鮮花」(開き始めた花)です。立派な花を咲かせてください! 紅組応援団長 新枝 由衣(Ⅲ年2組)



“一年前、今ここに僕が立っていることをいったい誰が想像しただろう。応援団に入る気さえなかった僕が、応援団長となり、みんなと一緒に体育祭を最高のものにしようとしている。”そんなことを考えながらの入場行進。結局、僕たち白組は負けたものの、悔しさよりも何かスッキリしたような気持ちで一杯でした。そして多くの人に支えられていることを改めて実感しました。雨天日続きでも体育祭を開催してくださった先生方、最後までついてきてくれた応援団や生徒のみんな、それから保護者の方々、本当にありがとうございました。この最高の思い出は一生決して忘れません。 白組応援団長 増田 敦士(Ⅲ年5組)

CONTENTS

- 第44回体育祭 ————— 1
- 芸術鑑賞 ————— 2
- 卒業生 光原 大樹 リサイタル ——— 2
- 中2ニュージーランド交換留学 ——— 3
- 中1新入生オリエンテーション ——— 4
- 高I新入生オリエンテーション ——— 4
- 遠足 ————— 4
- 教育実習生 ————— 5
- 夏休みの勉強法 ————— 5
- さよなら三宅キャンパス ————— 6
- 生徒会役員 ————— 6
- CLUB NEWS ————— 6



6月21日(土)に芸術鑑賞が行われ、東京芸術座による、『12人の怒れる男たち』を鑑賞しました。この演劇は、陪審員制度を素材にしたもので、殺人事件を起こした少年の評決をする場面からはじまります。“5分間”で下されると思われた評決ですが、「せめて1時間、話し合しましょう」と一人の男が言い出します。「無罪」を主張するただ一人の男の発言をきっかけに、12人の男達の会話がギクシャクしながら進んでいきます。やがて、“事実”が意外な側面を見せてきた……というストーリーです。



ストーリー自体のおもしろさや劇団員の方の迫真の演技に引き込まれ、あっという間に時間が過ぎてしまいました。中には身を乗り出して見ている生徒もいました。

芸術鑑賞を通じて生徒たちは陪審員制度というものを垣間見、日本でもはじまる裁判員制度を考えるよい機会になったのではないかと思います。

私がこの舞台を見て思ったことは2つあります。
 1つ目は、裁判員制度のことで、日本でも裁判員制度が行われるようになりますが、その制度によって無罪なのに有罪とされてしまうのを防ぐことができるのではないかとことです。今回みたいに1人でも話し合おうと言う人が私たちの中にいれば、たとえ有罪だとしても、どうしてそういうことをしてしまったのかなど、奥深くまで本当のを知ることができるのではないかと思います。
 2つ目は、よく考えることについてです。パッと思いつきで判決を出すより、よく考えてみる。そういうところから制度のよさが出てくると考えました。裁判に関しては素人だけど、よく話し合いよりよい判決を出すことの大切さを舞台を見ながら思いました。(1年1組 荒木のどか)



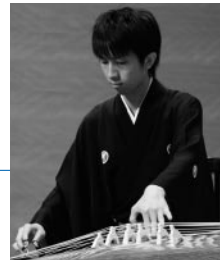
人を裁くというのは、恐ろしいことだと思った。人を殺すことと同じくらい怖く、重みのあることだと思った。
 どんな物事でも議論によって決めるのなら、いろんな立場を考えて結論を出さないといけないことが分かった。自分の感情や相手の身分によって決めてはいけないことであり、難しいことだと思った。
 人が人を裁いて、それが間違っていたらと考えたら、人を裁くということに対する考え方が変わった。証人がいるからすぐに決めていい訳ではないと思った。きちんと議論するのは大変だし、自分の意見が否定されたりすると感情的になるかもしれないけど、議論は結論を出すためにあるから人の話を聞くことも大切にしなないといけないと思った。
 (2年5組 谷口雅也)

人間が12人集まるだけで、いろいろな人間性が見えてきます。冷静に判断できる人や感情的に全てを決めてしまう人、偏見や固定観念にとらわれてしまっている人など様々でした。でも、だからこそ私は少しでも正しい判断に近づけると思いました。完璧ではない人間が集まるからこそ、それぞれの矛盾や間違いを見つけていくことができるのだと思います。真実が分からないままに裁判というのは終るべきではないと強く感じました。冤罪は決して起こってはいけないものだと思います。それだけ人を裁くということは重く責任のあることなんだと思います。(Ⅱ年1組 中野 由理)

卒業生 光原 大樹 リサイタル

6月19日(木)、本校卒業生で琴奏者の光原大樹さん(22歳)の演奏会が開かれました。新聞にも取り上げられ、平日の雨天にもかかわらず、当日券も早々に完売。立見の聴衆もでる盛況ぶりで、琴はもちろん三弦に唄にと、多彩な演目が披露されました。

皆さん、いま夢中なことってありますか? サッカー・テニス、音楽・美術、部活でも授業でもなんでもいいのです。学生時代の内になにか夢中になるもの一つ作ってみてください。夢中になるものができた時、それが将来に直結する人や、逆にまったく関係ない人がいると思いますが、直結する人は突き進むだけ、例えば将来まったく関係ない職業についても、そこで得るもの、例えば友達、知識、努力、必ず自分一生の財産になります。本気でやりたいことを見つけるとことんやる! 継続は力なりです。自分のしたいことを見つけたときから、少しずつ未来は開けていきます。(光原 大樹)



【プロフィール】

- 昭和61年 広島市安佐南区に生まれる。
- 昭和64年 難波弥智磨氏に生田流箏曲の手ほどきを受ける。続けて難波弥智臣氏に師事。
- 平成10年 広島工業大学附属中学校(現・広島なぎさ中学校)入学。
- 平成13年 広島工業大学附属広島高等学校(現・広島なぎさ高等学校)入学。
- 平成15年 生田流箏曲および地歌三絃を安藤政輝氏に師事。
- 平成16年 広島工業大学附属広島高等学校卒業。
- 同 年 東京芸術大学音楽学部邦楽科生田流専攻入学。
- 平成18年 「The Asian String Sound」に東京芸術大学学生として参加、韓国国立劇場他で演奏。
- 平成20年 東京芸術大学音楽学部邦楽科生田流専攻卒業。
- 現 在 輝箏会、森の会、東京芸術大学同声会広島県支部、各会員。

中2ニュージーランド交換留学

5月17日(土)～5月28日(水)、ニュージーランドのバサデナ中学校から20名の交換留学生が来校しました。交換留学する生徒だけではなくバサデナ委員をはじめ、合唱隊、飾り付け隊、文化交流隊など多くの生徒が積極的に活動し、お互いに協力する中で交流を深めることができました。

今回初めて体育祭をバサデナの生徒たちも本校生徒と一緒に参加しました。学年合同LHRで練習した大縄跳びではバサデナ生チームも各クラスに負けない奮闘を本番で披露することができ、観客を大いに沸か



せました。他の参加種目でも紅白に分かれて一生懸命協力し合い、日本の学校文化を体験することができました。

毎日の授業では日本語の理解できないバサデナ生を助けようと、慣れない英語を使ったり、身振り手振りを使ったりしていました。休み時間には言語の壁を感じさせないくらい意気投合している姿も多く見られました。この他にもバサデナ生は高校生のガイドで宮島や平和公園を見学したり、華道や書道などを体験したりして、充実した日々を送りました。

現在本校留学生はニュージーランドでのホームステイを心待ちにしているところです。



私はNZ交換留学生の受け入れを終えて、感じた事がたくさんあります。また、今までの生活と変わった所もあります。

一つ目は、もちろん言葉です。Toniのおかげで、自分の最も学びたかった英会話を学べました。最初は、単語ばかりでちゃんと伝わっているか、不安だったけど、慣れてくると、意外な事にペラペラ話することができてとても嬉しく思いました。

二つ目は、あまりテレビを見なかった事です。Toniの家庭では、ごはんを食べる時はテレビを見ないと言っていました。Toniにとっては当たり前でも私にとっては苦痛でした。Toniの家庭に合わせる事で、Toniにマイペースに普段通りしてもらえるように気を遣いました。

三つ目は、何にでも興味を持って挑戦してくれる所です。自分が教えた広島の名産品や、日本食、今、流行っている物を紹介するとすごく興味深そうに写真を撮ったりしてくれて、良かったなと思いました。特に、最近流行っている物を教えてあげると、「Wow」と言って嬉しそうでした。また、ブリークラやアクセサリ、服などにすごく興味を持ってくれました。

この他にも、私が学んだ事、感じた事はたくさんありました。Toniは私にとって絶対忘れる事のない友達になったと思います。次は自分が行く番なので、ニュージーランドの色々な事を学び、体で感じたいと思います。(2年1組 向井 真帆)

Joshuaが僕の家に来た2週間はとても早く過ぎました。

この2週間、僕は度々Joshuaとケンカをしました。僕には兄弟がいません。だから対処法がまったく分かりません。なので、我慢をしていました。この事で僕は兄弟を持つことはとても大変な事を知りました。もちろん嫌な事ばかりではありません。Joshuaは僕の家のムードメーカーでした。Joshuaはジェスチャーがとてもうまく、僕たちは英語が話せないのもとても助かりました。Joshuaはとても明るい子でした。僕はJoshuaみたいな兄弟が欲しいと心の底から思いました。

しかし、別れはやってくるものです。Joshuaがいなくなる夜、僕はとても悲しかったです。たった2週間過ごただけなのに、Joshuaはかけがえのないものになっていました。しかし、今度また会えるのです。永遠に会えないわけではありません。その会える時まで僕はずっと楽しみにしています。(2年2組 鳥津 匠)

私は男の子を受け入れました。まだEricと出会うまでは異性という事に不安を持っていました。でも、出会ってからそんな不安は吹っ飛びました。正直、今は男の子を受け入れて良かったなと思っています。出会って少し時間がたつまで男女の見えない壁に戸惑いを感じたりする場面もありました。でも、お互い触れ合っていくにつれて、その見えない壁がいつの間になくなっていました。Ericはもう家族の一員なんだなと思いました。Ericとは、全部が全部、会話が成り立つわけではありません。でも、心は一つになりました。たとえ、話せなくても絵を描いてみたり目で伝えたり体で伝えたり...その小さな努力の一つで絆の深まり方が変わるんだなと思いました。私はEricと交流するなかで、数えきれないほど多くのことを学びました。

Ericは日本食に自分からチャレンジしていました。味噌汁以外ならほとんど大丈夫でした。Ericが疲れているという表情の時、私は度々Ericに「疲れている?大丈夫?」と聞きました。Ericは絶対に疲れているのに明るく大丈夫だよいつも言っていました。

Ericとの2週間、正直短かったです。でも、この2週間で私はどのくらいの事を学んだのかな?と思います。私がNZへ行ったら、Ericみたいに食べ物にチャレンジして、いろいろな事を学びたいと思います。(2年5組 堀 有沙)



中1 新入生オリエンテーション

日程/2008年4月10日(木)~12日(土) 場所/もみのき森林公園

新入生オリエンテーションでは、3つの目的を意識して活動が展開されました。1つ目は「広島なぎさ魂(スピリット)の理解」です。鶴学園の建学の精神「教育は愛なり」や本校の教育目標の一つである「人間力の育成」などのお話を心で聴く姿勢が見られました。2つ目は「集団生活のルール」の厳守です。みんなが気持ちよく過ごすためにルールがあることをお互い

に確認することができました。3つ目は「親睦を深める」です。体育館でのクラス対抗長縄大会では、悪戦苦闘しつつも心一つにして何度もチャレンジする姿が見られました。大自然の中でのオリエンティングでは、班長を中心にグループで協力して、全員無事にゴールすることができました。充実した中学校生活を送るためのヒントを見つけることができた新入生オリエンテーションでした。



仲間のお弁当。たくさんの人と話して交流を深めました。



アスレチックに挑戦中(オリエンティング)

僕は「コミュニケーションはキャッチボールだ」という話が一番印象に残っている。先生は、実際にキャッチボールをしながら「キャッチボールは相手が受け取りやすいボールを投げるのが肝心。相手と顔を向き合わせて投げるのが大切だ」と話をした。僕は「なるほど」と思った。対話をするときは相手と向き合って話さない本当の感情はお互い理解できない。相手に優しく伝わる言葉で話すことが大切だと思った。(1年1組 黒木 勇一)

初めのうちはどのクラスも大縄を跳べなかったが、だんだん連続5回などの声聞こえるようになった。ところが、私のクラスは1回を跳ぶのもやっとで連続なんて全然できなかった。こんな調子で練習の時間が過ぎていった。そして本番。二分間で連続何回跳べるかを競った。でも、やっぱり跳べない。結局、前半2回、後半0回、合計2回だった。体育祭までにはもっと練習して、しっかりと跳べるようになりたい。クラスのみんなが一つになれば、必ず跳べると思う。(1年3組 石田 理紗)

高I 新入生オリエンテーション

日程/2008年4月10日(木)~12日(土) 場所/国立山口徳地青少年自然の家

高校I年生対象の新入生オリエンテーションが春の暖かな日差しの中実施されました。2泊3日の日程の中で「広島なぎさ高校へようこそ」「これが広島なぎさ高校だ」「広島なぎさ高校の生徒とは」「これから何をすべきか」などのプログラムや、マツダ株式会社より福馬 勉氏をお迎えしての講演「夢を持って最後までやりきることが大切」が行われました。これらの

プログラムや講演に対して生徒たちは熱心にメモを取りながら聞き入っていました。また、ワークショップ「まずはコミュニケーションから」や野外炊事では、コミュニケーションの大切さを学ぶとともに、互いの交友を深めることができました。このオリエンテーションでの学びと体験をもとに、実りの多い高校生活をスタートすることができたのではないかと思います。



協力して火をおこしました(野外炊事)。



福馬氏から、夢を持つことの大切さを学びました。

将来の事や進路の事を今まで以上に考えるようになった。それは、自分と自分の将来に正面からぶつかることができるようになったということだと思う。これができれば自分の進む道もきっと見えてくるはずだと思う。(I年3組 原 裕里奈)

私は、自分なりにいいんだということを感じた。大学受験であっても、学校生活であっても、何でも。夢があるかないかとかは個人差があるし、いろんなことで同じ人はいない。それぞれがそれぞれの好きなこと、得意なことを最大限に活かせば大きな力になると思った。(I年2組 福岡 奈織)

遠足

今年も天候に恵まれ、それぞれの学年ごとに遠足が4月11日(金)に行われました。高IIは、島根県浜田市にある「しまね海洋館アクアス」に行きました。ただ展示生物やパフォーマンス



普段、見ることでできない水族館の裏側を知ることができました。

を見て回ったりするだけでなく、海獣類のトレーニングを人で疑似体験し、トレーニングやコミュニ

ケーションの取り方について学ぶワークショップをしました。また、鯨プールの真上の橋を歩いたり、餌やりや冷凍保存庫内、解体現場などを見学したりするバックヤード見学などもありました。そのような体験を通して海洋生物の体のつくりと生態、生物飼育の意義や環境保護活動、水族館のしくみを学びました。また、瀬戸内海とは違う日本海に感動しながら浜辺で無邪気に遊び、のんびりと過ごす生徒もいました。そして、白イルカのバブルリングに心を癒され、広島に帰ってきました。



学年	行き先
中2	みよし風土記の丘
中3	宮島 弥山
高II	しまね海洋館 アクアス
高III	尾道市内

教育実習生

今年も、多くの卒業生が教育実習生として本校に戻ってきました。
実習生は2週間～3週間という短い間のなかで様々な体験をしたことと思います。そこで、お二人の実習生にお話をうかがいました。

教育実習生として母校に帰ってきて



関西大学工学部都市環境工学科4年 田中 誠
(指導教員:松村 真輔)



まず、実習が決まった時HPを見て「なぎさ」という校名になっていたこと、制服が変わっていたことなど色々な変化に驚かされました。

大阪から広島に帰ってくる間、「どんな生徒に出会えるだろう…」、「きちんと授業出来るだろうか…」と期待半分と不安半分で車に乗っていたのを思い出します。実習が始まると、そんな不安を感じる暇もなく、体育祭や授業の準備に追われ3週間という期間はあっという間に過ぎてしまいました。

今、思い返すとクラスの生徒とお弁当を食べたり、クラス旗を作ったり、楽しい思い出しか出てきません。私の中高6年間の楽しい思い出にさらに3週間を加えることができました。お世話になった先生方、特に指導教諭の先生には感謝しています。



津田塾大学学芸学部英文学科4年 藤井 裕子
(指導教員:森山 幸)



教育実習生として母校に帰ってきて、最初に全く変わっていない校舎やお世話になった先生方とお会いして、なつかしさを覚えました。そして「先生」という立場で実際に授業をしてみて、初めて授業準備の大変さや教えることの難しさを知りました。そんな中で授業を終えるたびに指導担当の先生方に指導・アドバイスをさせていただき、感謝しています。

今年で私が6年間通い、慣れ親しんだこの校舎は最後ということ、寂しさを感じますが、最後の年に体育祭に参加し、そしてよく悩み、考えながら行動した、充実した3週間の実習生活を送る事が出来ました。貴重な体験をさせていただいた事に本当に感謝しています。

後輩のみなさんへ

在学中は高Ⅱまで野球部で汗を流していました。毎日、毎日練習をして、仲間たちと切磋琢磨しながら過ごした日々がこの学校での一番の思い出です。「あきらめず、努力する」ということの大切さを身をもって経験できたと思います。現実を見るのはいつでもできます。今はあきらめず夢を追いかけてください。

今、中学・高校時代を振り返ると、素晴らしい友人達と出会い、自分の目標に向かって努力していた日々でした。今でもその当時の友人達は大切な存在ですし、現在もその目標を達成するために頑張っている最中です。皆さんも振り返った時に充実した日々だと言えるよう、後悔のないように今しかない中学・高校生活を送ってください。

中1・高1生のための夏休みの勉強法(国・数・英)

国 語

中 1

- ①読書 ②問題集で演習 ③知識の定着 以上、3種類の宿題が出ます。きちんと取り組み、しっかり力がつきます。
- ①…せっかくの長い休みです。本をたくさん読み、読書感想文を書きましょう。授業で習う書き方に沿って3回程度推敲するとよい文章になります。
- ②…「徹底演習テキスト」に取り組みます。授業で培った力を使って問題を解く訓練をします。答え合わせが決め手です。納得できるまで解説を読んでください。
- ③…小学校高学年、中学1年生の漢字の復習です。全部の漢字を覚えたら、宿題完了です。間違っていたものを覚え直すことが主目的と心得てください。

高 I

古典分野でつまづいていませんか。統計を見ると、高Ⅰ後期に古文漢文に苦戦する生徒が見られはじめ、そのまま解決できず、高Ⅲでも苦手教科になるようです。「受験生になる前に弱点だけはつくりたくない」「受験生になってからは弱点を補強する時間は足りないことが多い」と肝に銘じると、よい夏休みになるでしょう。さあ、今がチャンスです。古典文法や句法を丁寧にやさしい、頭の中に定着させておきましょう。

現代文(評論)の内容が読み取れないあなたは、新聞を毎日読みましょう。そのときにパラグラフ読み(段落ごとに大意をつかむ・一段落に内容はひとつ)をすると、40日後には、要約の力が育っています。納得のあなたに楽しい高校生活をお約束します。

数 学

夏休みには課題として、「My Friend」(課題帳)が出されます。その課題帳を丁寧にやり、答え合わせと間違い直しをしましょう。(中学生はノートに、高校生は課題帳に書き込んでも可)この夏休みの課題は、『これだけはやっておかなければならない最低限のもの』です。しかし逆にいえば、『それだけでは十分ではないもの』です。自分が今やるべきことは何なのかをしっかりと考え、決められた課題以外のものも学習していく姿勢が重要なのです。例えば、この課題をこなしたら、自分の苦手としている単元を把握できるでしょう。その苦手な単元を、体系問題集などを使ってしっかりと復習すれば克服することも出来ます。苦手な単元の学習には時間が掛かるものです。時間に余裕のある夏休みにこそ出来ることなのです。

(数学の夏休みの勉強) = (My Friend)

英 語

英語は語順がとても大切な言語です。中学校から初めて英語を学ぶ1年生のみなさんは、今まで習った英語の文を声に出して大きな声で何回も音読して語順をしっかり身につけるようにしましょう。高校1年生にとって、夏休みは苦手なところを克服するチャンスです。特に第1回定期考査でできていなかったところを復習しておくようにしてください。また、さらに英語力をアップしたい人は英語で1冊何か読んでみましょう。CDなどを使ってネイティブの発音やイントネーションをまねをしながら合わせて読み、リスニング、スピーキングの練習の強化をしてください。

さよなら三宅キャンパス

鶴学園創立50周年記念事業の一環として、本校はキャンパスをこの校舎のある佐伯区三宅から、佐伯区海老山南に移すこととなりました。この8月には移転作業を終え、9月から新キャンパスでの学びがはじまることとなります。本校は40年近くこの三宅地区で様々な教育活動を展開してきました。多くの生徒たちがこの校舎から巣立っていきました。この校舎は生徒たちにとって思い出深い青春の1ページであると同時に、また、多くの教職員にとっても様々な思いが詰まった場所であると思います。そのような三宅キャンパスへの思いを、お二人の先生方に述べていただきました。



1969年頃、当時はまだ南校舎だけだった。

私は1970年に広島高校・中学校にやってきました。22歳でした。その頃、校内には現在の南校舎とクラブハウス(現在の体育棟があるところに建っていました)、そして柔道場の三棟の建物しかありませんでした。校地の周りは、水田や畑が広がっていました。皆さん気づいているでしょうか。南校舎の陶芸教室(この頃ここは食堂でした)の前の角この柱には何と、「1965」と刻まれたプレートが埋め込まれています。そうです南校舎は1965年に完成し、44年の永きにわたって広島高校・中学校の生徒諸君を受け入れ、そして送り出してきたのです。生徒や先生を暖かく包み込み、慈しんでくれました。そして今、広島なぎさ中学校・高等学校の歴史の始まりを見届けて、校舎としての生涯を終えようとしています。多くの生徒が学び、巣立っていったこの地から広島工業大学附属広島高等学校・中学校の名前が消え去っていくことを校舎も寂しく思っていることだと思います。しかし、これも広島なぎさ中学校・高等学校の新たなステージへの飛躍だと考えて、祝福をもって私たちを見送ってくれることと思います。ありがとうございます。

広島なぎさ中学校・高等学校の新校舎竣工も約1ヶ月となり、関わりのある人々は、それぞれ多様な思いを持つと同時に、この校舎に対する思いもひとしおのものがあるのだと思います。

印象強く残っているのは、「南校舎」です。1965年に農地を埋め立てて建設されました。それ以前は校舎一棟のみでしたが、当時の教職員と広島高校・同附属中学校の生徒が井口の現工大高校の所から移ってきました。

校舎の構造には、先年「神の国」に先立たれた学園創立者鶴裏先生の発案で工夫されたものがありました。その一つに廊下の幅の広さがあります。広い廊下を活用して学級・学年指導などを行ったり、有事の際の避難の配慮がされています。また、数年前に廃止されましたが屋上にはブリッジ型の屋根があり、屋根と屋根の間にテントを張り全校生徒が集会できるようになっていました。南側の壁面上部には、カラフルな塗装がされており、ある選挙のとき、校舎をマンションと勘違いした選挙宣伝カーが応援演説を始めたので職員が慌てて飛び出し中止してもらったこともありました。



1979年頃、今の事務室に当たる建物が増設されている。



1986年頃、北校舎(現西棟のみ)が見える。

これまで多くの思い出を「ありがとう!そして、さようなら……」
(教諭 山口 豊資)



グラウンド西側から見た現在の風景、奥にアリーナと北校舎東棟が見える。

新生徒会役員

会長	木原 春香 (Ⅱ-2)
副会長	高橋 佐都 (Ⅰ-3)
書記	安岡 亜希乃 (Ⅰ-5)
	岩見 智子 (Ⅱ-2)
会計	近藤 結花 (Ⅰ-3)
	村中 直樹 (Ⅱ-2)

会計監査	水野 紫陽花 (Ⅰ-5)
	岡川 翔 (Ⅱ-2)
風紀委員長	高山 真一 (Ⅱ-1)
文化部長	沖増 朋樹 (Ⅱ-4)
運動部長	弓削 茉莉子 (Ⅱ-1)
美化部長	東堂 賢治 (Ⅱ-2)

4月から3ヶ月ほどがたち、新入生も学校生活に慣れてきたことでしょう。そんな時期ですが、夏休み明けには新校舎への移転が決まっています。真新しい場所で過ごすことに期待を膨らませている人もいるでしょう。また、不安に思っている人もいるかもしれませんが、私は、皆さんが早く新しい環境に慣れ今まで以上に楽しい学校生活を送ることができるようにしていきたいと思います。これから一年間どうぞよろしくお祈りします。 新高校生徒会長 木原 春香

CLUB NEWS

高校バドミントン部

●平成20年度広島県高校総体広島地区予選会
日時:平成20年4月19日(土)・20日(日)
成績:女子ダブルス
橋國 杏子(Ⅱ-4)・中村 有美(Ⅱ-4)
ベスト32 ※県総体出場決定
●平成20年度広島県高等学校バドミントン選手権大会(個人対抗戦)
日時:平成20年6月7日(土)・8日(日)
成績:女子ダブルス
橋國 杏子・中村 有美
ベスト32

高校水泳部

●平成20年度第42回広島地区春季水泳競技大会
日時:平成20年5月10日(土)・11日(日)
成績:男子総合 5位
男子400mメドレーリレー 第2位
男子400mリレー 第3位
男子800mリレー 第4位
久留 琢丸(Ⅱ-4) 男子100m自由形 第1位
男子50m自由形 第2位
原 剛輝(Ⅱ-5) 男子200m背泳ぎ 第3位
男子100m背泳ぎ 第4位
白石 遊(Ⅱ-3) 男子200m平泳ぎ 第6位
●第61回広島県高等学校総合体育大会
日時:平成20年6月7日(土)・8日(日)
成績:男子総合 4位(52点)

男子400mリレー 第4位
男子400mメドレーリレー 第4位
男子800mリレー 第4位
久留 琢丸 男子50m自由形 第1位
男子100m自由形 第1位
原 剛輝 男子100m背泳ぎ 第5位
男子200m背泳ぎ 第5位

高校硬式テニス部

●第61回広島県高等学校総合体育大会テニス競技
日時:平成20年5月31日(土)・6月1日(日)・7日(土)・8日(日)
成績:男子団体 ベスト8
男子シングルス
田鍋 光平(Ⅰ-5) ベスト16
※第48回中国高等学校テニス選手権大会 出場決定
小林 慶太(Ⅰ-1) ベスト32
男子ダブルス
田鍋・小林組 ベスト16
女子シングルス
国広 友美(Ⅲ-3) ベスト16
※第48回中国高等学校テニス選手権大会 出場決定

中学バドミントン同好会

●平成20年度広島市中学校バドミントン選手権大会
西・佐伯区 地区大会
日時:平成20年6月15日(日)
成績:個人戦シングルス 植永 早美(3-1) 第3位
※市大会出場決定

中学男子バスケットボール部

●平成20年度広島市中学校バスケットボール選手権大会佐伯区大会
日時:平成20年4月20日(日)・29日(火)
成績:第3位 ※市大会出場決定
●平成20年度広島市中学校卓球選手権大会佐伯区大会
日時:平成20年5月10日(土)
成績:団体戦Aチーム 第3位 ※市大会出場決定
個人戦 山本 祥士(3-1) 第3位
田村 正範(2-2) ベスト8
※市大会出場決定

中学陸上部

●第34回広島地区中学校陸上競技選手権大会
日時:平成20年6月7日(土)
成績:長谷川 貴大(3-1) 男子100m 第3位
男子走り幅跳び 第2位
渡邊 浩陽(2-3) 男子走り幅跳び 第8位
渡邊・長谷川・角山(1-2)・新谷(3-1) 男子4×100mリレー 第6位
●平成20年度広島市中学校陸上競技選手権大会
日時:平成20年6月21日(土)・22日(日)
成績:角山 巧(1-2) 1年男子100m 第1位
長谷川 貴大 3年男子100m 第2位
男子走り幅跳び 第1位
渡邊・長谷川・水津(2-3)・新谷 男子4×100mリレー 第6位